

平成19年度 森林及び林業の動向(第1部 森林及び林業の動向)の構成と内容(案)

【特集テーマを「林業再生への挑戦」(仮称)とした趣旨】

- 地球温暖化防止をはじめ森林の公益的機能への期待が高まる中、京都議定書の第1約束期間を間近に迎え、森林整備の適切な実行が重要。
- 一方で、森林整備を支える林業は採算性の低迷等厳しい経営環境にあり、このような現状から脱却するためには、林業経営の規模の拡大や林業生産コストの低減に向けた取組が不可欠な状況。
- その対策として新生産システムをはじめ安定供給体制の構築に向けた取組が動き始めており、施業の集約化や機械化等により長期的な森林づくりや採算性の向上を目指す取組も出てきている状況。今後はこうした取組が全国的に加速化していくことが求められている。
- このため、19年度白書の特集では、林業の現状や課題、動き始めた先進的な取組等を踏まえ、森林整備と国産材供給を支える林業に求められる姿を提示するとともに、林業の果たす役割や重要性について国民の理解を促すこととする。

【各章の構成と内容】

<p>I 林業再生への挑戦</p> <p>1 国民の期待に応える森林づくり ～期待が高まる温暖化防止への貢献～</p> <p>2 森林整備を担う林業・山村の現状</p> <p>3 新たな林業に向けた胎動 ～安定供給を支える経営体の育成～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化防止への期待の高まりのほか、樹種や伐期の多様化による多面的機能を持続的に発揮させる森林整備の重要性、そして、その森林整備を支える林業の重要性について記述。 ・ 森林経営、林業従事者、山村の現状とともに、森林整備の遅れが懸念される状況について記述。 ・ 安定供給を支える経営体を育成するため、森林組合、素材生産業者等が地域の特性に応じて集約化や機械化等に取り組み、生産性・採算性の高い林業経営を目指すことの重要性等を記述。また、その推進のために必要な施業提案、情報提供の必要性等について記述。
<p>II 京都議定書の約束達成に向けた森林吸収源対策の加速化</p> <p>1 地球温暖化防止を巡る動向</p> <p>2 我が国における地球温暖化防止対策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ IPCC報告書による温暖化の影響やサミット、APECの動き等について記述。 ・ 京都議定書目標達成計画の見直し、森林吸収量の現状や吸収源対策の加速化の必要性等について記述。
<p>III 多様で健全な森林づくりに向けた森林の整備・保全</p> <p>1 多様で健全な森林づくりに向けた森林の整備</p> <p>2 安全・安心の確保のための国土の保全等の推進</p> <p>3 世界の森林の動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様で健全な森林づくりのための森林整備の推進、花粉症対策等について記述。また、ボランティアや森林環境教育、地方公共団体の取組等について記述。 ・ 山地災害からの国土の保全への取組、森林病虫害対策等の取組について記述。 ・ 世界の森林資源の現状と持続可能な森林経営の推進に向けた国際貢献について記述。
<p>IV 木材需給と木材産業</p> <p>1 木材需給の概況</p> <p>2 木材産業をめぐる動き</p> <p>3 木材利用を推進するための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 需給量、自給率、価格の動向のほか、集成材、合板の動き等について記述。 ・ 住宅着工の動向、新生産システムの取組状況、流通構造の変化等について記述。 ・ 木造住宅の推進、木づかい運動、木質バイオマス、森林認証等について記述。
<p>V 「国民の森林」としての国有林野の取組</p> <p>1 国有林野の現状と期待される役割</p> <p>2 「国民の森林」を適切に管理するための様々な取組</p> <p>3 国有林野事業における改革の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国有林野が果たしている役割や国有林野に対する国民の期待等について記述。 ・ 優れた自然環境を有する森林の維持・保存や国民参加の森林づくり等の様々な取組について記述。 ・ 国有林野事業における改革の動きについて記述。